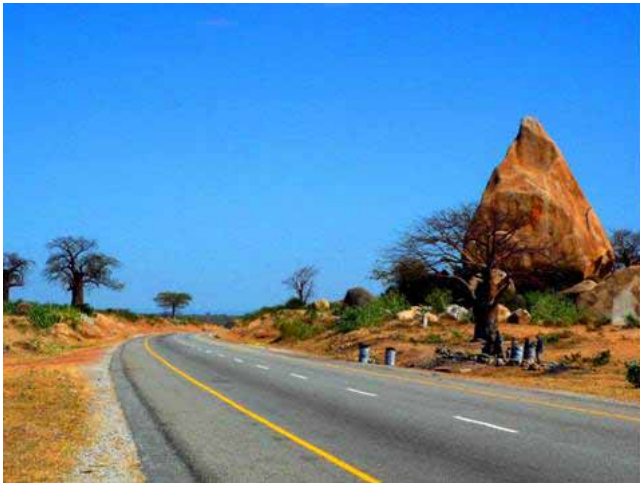




- | | |
|----------------------------------|---------------------------|
| 1) 今月の1枚: 「タンザニアのおにぎり岩」 | 4) JichoのJicho: 「軍弾薬庫 爆発」 |
| 2) JICA in Tanzania: 援助協調って難しい?! | 5) カリブ・クワヘリ |
| 3) クリコニ?: 5月のできごと | |

**(1) 今月の1枚:
「タンザニアのおにぎり岩」**



5月末、はじめてシンギダ州を訪れました。内陸部なので、砂漠のようなところなのだろうか…? 胸をワクワクさせながら、ドドマ市街を抜け、シンギダ方面に車を走らせると、こころ石の詰まった山々が両側に現われました。アフリカの原風景を見るような懐かしさを覚えながら、あの山のとっぺんでおにぎりを食べたらいいだろうな～なんて感じていました。そこに突如、出現したのが、おにぎり岩! あまりのシンクロニシティ(共時性)に、心を見透かされたようで、ドキッとしました。ちなみに、ドドマからシンギダまでは、車で約3時間半。途中、未舗装の部分がありますが、今年中には舗装道路が貫通するそうです。着いてみれば、豊かな湖を二つも持つ、不思議の国、シンギダ。みなさんも、ぜひ一度訪ねてみてくださいね。

(州保健行政システム強化プロジェクト副総括 福土恵里香)

**(2) JICA in Tanzania:
「援助協調って難しい?!」**

(坪池所員)

約4年間、援助協調の先端をいっていると言われるタンザニアの現場で活動してきた坪池所員から、「援助協調」って本当はどんなもの? に答えてもらいます。

「援助協調」って、堅苦しい響きで、気合が必要な印象がありませんか。私がタンザニアに来るまで、頭で理解しているつもりだけどやっぱり分からない、と思っていたことの一つです。開発協調とも呼ばれるこの用語、何を指しているのか、実態は何なのか、お付き合い程度のものなのか、なぜ日本にいる人たちは援助協調を難しく考えているのか。

ある時、ウガンダで会った教育の専門家が、「そんなに難しいものではないですよ。1人(一国)では出来ないことを、それぞれのドナーが知恵やお金を出し合って達成するためにあるのだから」と説明してくださいました。目的は、横並びの足並みを揃えることではなく、力を合わせてみんなで取り組む、ということなのだ! という当たり前のことが分かった瞬間でした。

タンザニアでの4年弱の勤務を通じて、援助協調を見てきたのですが、取り組む方法は変わっていくものの、目指すところはやはり、「みんなの力で課題を解決していくこと」ではないかと思います。

タンザニアに協力をしているドナーの数は30を超えるといわれており、プロジェクトを展開するドナー、資金(現金)を介しての協力をするドナー、NGOと連携するドナー、それらを組み合わせて協力を展開するドナーといろいろな協力の形があります。

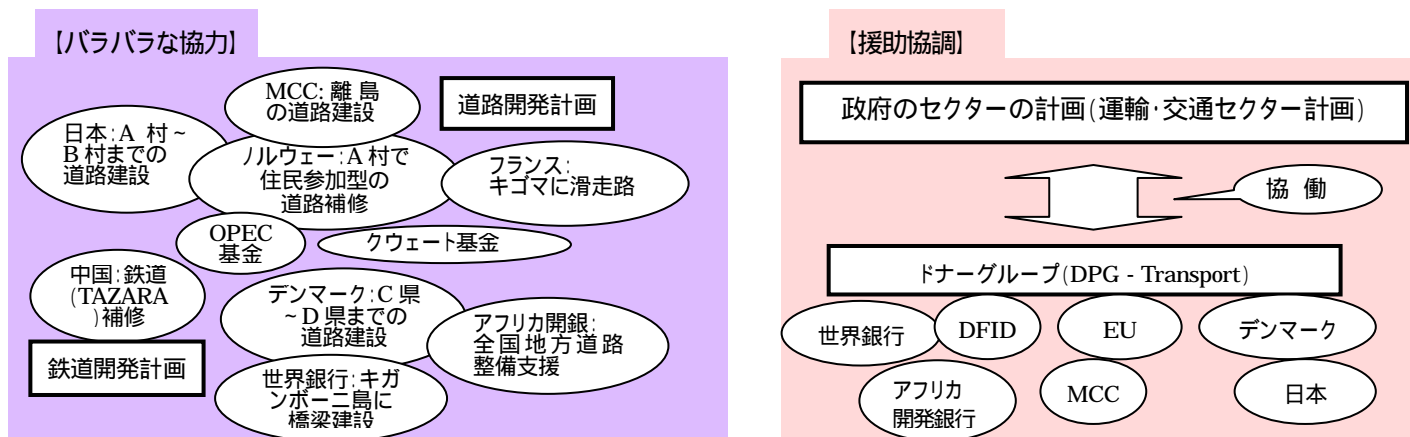


日本は、プロジェクト型と資金協力型がメインですが、そのバランスも国によって様々です。そんな違った人たちが、集まって一つの課題について一緒に協力していく方法や内容を議論していくのが「援助強調」です。

良い例えがどうか分かりませんが、プレゼントを買うときに、1万円出す人、3万円出す人、5万円出す人、お金がないから買いにいく役を買う人、アイデアを出すだけの人がいるとします。もらう人が欲しいものは何か、何をあげると役立つのか、予算はこれで足りるのか、そういうことをみんなで話し合い、プレゼントを買います。重要なのは、誰がいくら出したかとか、誰がどれだけ苦労してプレゼントを探したか、ではなく、1人1人に同じだけの重要さがあるのです。人によっては、ちょっとしかお金を出さないのに口だけ出して、とか、人の禪で相撲を取るな！と思うかもしれません。でも、その人にしかないアイデアや経験がお金に勝ることもあるのです。援助協調で大切なのは、1)金額の多寡ではなく積極的に関与していく姿勢、2)それぞれのドナーが持つ特性を磨くこと、3)皆が分かる言葉・ルールで話していくこと、の3点ではないだろうか、と思います。

良い協力体制を目指していくためには、まず、**1)協力する姿勢をアピールすること、2)自分は何が出来て他の人が何ができるか考えること**(比較優位の検討)、そして**3)コミュニケーションが必須アイテム**なのです。

そして、一番驚くのが、自分が良いと思ったことが必ずしも皆が良いと思っている訳ではなく、そして相手(政府)が必要なものも必ずしも合致しない、ということ。皆が、これまでの経験や知恵を出し合いながら、手探りで日々開発課題に取り組んでいるのが「援助協調」の現状ではないかな、と4年目になってようやく実感できてきました。



私が担当している電力セクターや運輸・交通セクターでも援助協調が進展しています。タンザニア政府が作成するセクターの戦略を土台とし、具体的な計画に落とし込んでいく段階でドナーから政策文書に共同で意見具申をしたり、タンザニアの運輸交通ネットワークの全体網の整理を行い、足りない部分を議論し、それぞれの資金をどのように投入できるか話し合ったり、お互いの強みを活かして、同じ方向に向かって開発を進めていくために、日々の情報共有、意見交換が活発に行われています。

最初は、政府とドナーの「あの子が欲しい、あの子じゃダメよ」という「花一匁」の援助協調のイメージも、最近はインターナショナルスクールの子供たちがお砂場で一緒に一つの城を築いている、程度のものに変わってきました。

少しは身近になったでしょうか、援助協調。

(3)く・り・こ・に? 5月のできごと

ここでは、5月のJICAの活動を紹介します。Kulikoni? とはスワヒリ語で「何があったの?」の意味です。Karibuni!(ようこそ!)

地域開発

[AICAD(アフリカ人造り拠点フェーズ3)] 5月末: ザンジバルにてネリカ品種登録活動視察

AICADはザンジバルに適したネリカ(New Rice for Africa)導入のための品種適性試験・登録活動を2007年から支援しています。5月末にはAICADタンザニア副ダイレクターとケニアとタンザニアのAICADから日本人専門家がザンジバルを訪れ、活動の視察を行いました。試験の実施や登録への動きは順調で、ザンジバルでの品種登録が年内にもできる見通しです。(専門家:村上雅彦)



農業

[DADP 灌漑事業ガイドライン策定・訓練計画]

4月30日～5月2日：ワークショップ実施

モロゴロ・ソコイネ農業大学において、水・灌漑省関係者、県灌漑担当者、農業研修所講師が参加して開催されました。

私たちのプロジェクトでは、農業バスケットファンドから、各県が灌漑事業の予算を獲得するための手引書「案件形成ガイドライン」、灌漑施設を作っていくための手引書「事業実施ガイドライン」、農民組織が完成した灌漑施設を維持管理できるように県がサポートする際の手引書「維持管理ガイドライン」を作り、それを実際に使って仕事ができるようになるための研修を行っています。

今回のワークショップでは灌漑組織が組織の運営、水・施設の管理、作物の栽培をうまく行っていくために、県職員・その他関係者がどういった研修を行っていく必要があるか、どういった研修資料が必要かといった事について検討しました。(業務調整 瀬尾逞)



水

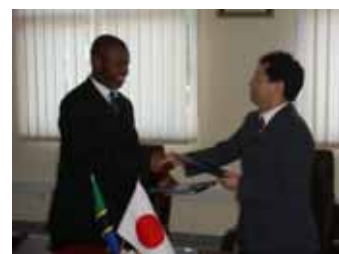
[ムワンザ州及びマラ州水供給計画]

5月27日：Exchange of Notes と Grant Agreement 署名式

署名式には、財務経済省から事務次官の Mr. Ramadhani M. Khijah が、在タンザニア日本国大使館からは中川大使が、そして JICA タンザニア事務所からは長谷川次長が出席しました。

この無償資金協力プロジェクトは、ムワンザ州及びマラ州内の44村落を対象として給水状況を改善するためにハンドポンプ付き深井戸を掘削したりするもので、2009年から2011年にかけて実施される予定です。この地域できれいな水を利用できる人は、現在の9,400人から55,000人に増える計画です。

(山本所員)



[州保健行政システム強化：RRHM]

5月25～28日：シンギダ州保健戦略計画発表会の開催

保健福祉省の州保健局強化担当官、プロジェクト専門家、ならびに中間レビュー・チーム一行が遠隔州の一つであるシンギダ州を訪問しました。シンギダ州では、州保健局の主導で州行政事務所、県政府、県保健局、NGO等を招いてステークホルダー会合を実施しました。ちなみに現シンギダ州行政長官は、モロゴロ・ヘルス・プロジェクト時代にモロゴロ州行政長官だった Ngaleyia 氏で、今回、新天地での再会を果たしました。同会合では、プロジェクトによる「戦略的思考と計画づくり」研修後(2009年4月)にシンギダ州保健局が作成した州保健戦略計画案を州医務官の Dr. R. Salim が発表し、保健戦略目標のためにお互いがどのように協力しあえるかを参加者と積極的に協議しました。プロジェクトでは、州保健局の役割が州内の関係者に認知され、州保健局の能力強化が州保健における問題解決につながるよう、さらに関係者を巻き込んだ制度改善につなげていく予定です。

(副総括：福土恵里香)

(写真：シンギダ州保健局メンバーと中間レビューチーム。)

中央は、州医務官の Dr. Robert Salim)



保健

[5Sの広がり～整理・整頓・清潔・清掃・躰]

5月20・21日：イリンガ県庁でセミナー

イリンガ県庁からの熱烈な要望に応え、保健省の石島専門家による5Sセミナーが2日間にわたり開催されました。1日目はトサマガンガ県立病院で医療従事者対象、2日目は県庁職員他が対象でした。イリンガ市内で活動中の青年海外協力隊、久保隊員(司書)と高野隊員(コンピュータ技術)の2名も、それぞれの配属先スタッフと一緒に参加することができました。参加者は石島専門家に「数ヶ月後に我々の事務所を見に来てください。きっと5Sを実行していますから。」

と口々に伝えていました。

数ヶ月後が楽しみです!

(フィールド調整員

堤智子)



(4) JICHO の JICHO : 「軍弾薬庫 爆発」

(長谷川次長)

4月29日は何の日でしょうか。

日本では休日(天皇誕生日ではなく、みどりの日でもなく、2007年からは「昭和の日」になった)ですが、今年2009年の4月29日は、ダルエスサラームでは、たいへんな一日になりました。

何が大変だったかといえば、ダルエスサラームの南部にあるムバガラ地区の軍弾薬庫で爆発事故が発生しました。弾薬庫周辺では学校の生徒を含む数百名の死傷者を出し、屋根が飛ぶ、壁が破損する、爆発が続く、家が燃えるなど非常に深刻な事態であったようです。現在でも多くの人が簡易テントでの生活を余儀なくされています。

現場から10km以上離れた市中心部のJICA事務所でもビル自体が振動し、「地震か?」と感じました。さらに距離のある自宅でも1階の窓も大きく振動したようで、家族も何が起

Jicho はスワヒリ語で1つの目です。JICA タンザニア次長担当コーナー、タイトルを少し変えてみました。

こったのかわからず、大きな不安を感じたようです。事故現場近くに居合わせた無償資金協力関係や青年海外協力隊員を含めた日本人の方々、また現地職員家族を含めたJICA関係者にけが等の被害がなかったことは本当に幸いでした。

しかし、JICA事務所にとって本当に「たいへん」な事態は爆発自体の被害ではなく、その後の対応でした。タンザニア事務所で「安全管理」を担当している本当に「途方に暮れる」「右往左往する」「路頭に迷う」などの言葉で表すべき状況になってしまいました。

というのも、「正確な情報が得られない」。事故が軍の施設であったことも一因かもしれませんが、事故の原因、被害状況、更なる被害の可能性、避難の要否等の最新情報がほとんど把握できない状況でした。爆発発生直後に事務所現地職員を通じて得た警察や軍幹部の情報では、「適切な管理下にある(Under control)ので心配するな」というものでした。

それで「心配ないだろう」と思っていた矢先に、「当ビル内の他のテナントはすべて避難済み。残っているのはJICAだけ」「市内の2階以上の建物から避難するように勧告が出されている」との情報が持ち込まれました。それも、ビルの管理者から来たわけではなく「誰かが誰かから聞いた」というような話。しかし、他のテナントが避難しているのは事実であったため「JICAも避難しなければ」という状況になった次第でした。実際、政府からの公式発表が明確になされた事実もはっきりしていません。タンザニア人もラジオやテレビで流される情報を頼りにしている状況で、それら情報が必ずしも信頼できるものとは限らないという二重苦、三重苦の状況下、何をよりどころにアクションをとればよいのか、という点は「永遠の課題」とも言えるのかもしれません。

JICA事務所としてはひとつひとつ問題の解決に当たりますが、このような途上国では確実な情報が得られないまま『安全サイドで余裕を見込んだ』対策を取らざるを得ないこともあると思います。来年の総選挙に向けて今後いろいろな動きがあるかと思えます。できる限り確かな情報収集に向けて努力したいと思えます。一方で、不確かな情報に振り回されることのないように、皆様のご協力もお願いしたいところです。

リレーエッセイ

~ Rafiki yangu 私の友だち in Tanzania ~

(20-2次隊 鈴木陽裕さん)

Fast food 店員セマニ。

Fast と言っても、吉野家よりは遅いけど、Best bite(ダルエスのハンバーガー屋)よりは早いくらい。

店内は喫茶店風で、値段もお手頃でサービス、味ともに良好。

なお且つハエと客が少ないのがポイントです。

彼女は冷えたビールを120%持って来てくれます。

私のソングアのベストプレイス

と言っても過言ではないレストランです。

ソングアでの最後の晩餐はFast foodになることでしょう。

みなさんもソングアにお越しの際は是非!!



次回は、謎のベールに包まれたタンザニア最奥地ムビンガの住人、金原さんをお願いします。



~!! よこそ!! ~

6月1日にタンザニアに新次長として着任しました渡邊次長です。

こんにちは! この度タンザニア事務所に赴任しました渡邊元治と申します。前回の任地がウガンダでしたので、東アフリカの地域には特に親しみがあり、今回の赴任を大変うれしく思います。趣味はジョギングと登山です。タンザニアでは、地方に少しでも多く行ってみたいと考えています。さらに、いつかはキリマンジャロを登りたいです。日本のアフリカ支援の最前線であるタンザニア、協力の推進に少しでも役立てるようがんばりたいと思います。



事務所で着任挨拶を行う渡邊次長

6月末に任期終了の坪池所員の後任として、新たに山本所員が加わります。

はじめまして、JICA 事務所にガバナンス・電力分野の担当所員として6月17日に着任した山本美奈子です。タンザニアは2004/5年の新人OJT研修で半年間を過ごした私のJICA人生のスタート地点です。その後、兵庫センターから農村開発部を経て、こうしてまた思い出の地に戻ってこられたことを大変うれしく思っています。これからお世話になりますが、よろしく願いいたします。

~! さようなら! お元気で! ~

4年弱タンザニアで勤務しました坪池所員が、6月末で任期を終了します。

Jambo! という言葉しか知らなかった約4年前。スワヒリ語で電話できる日が来るとは想像もしていませんでした。3年9ヶ月、周りのスタッフやタンザニアの関係者、大使館やプロジェクトの関係者の方々のおかげで、日々ダイナミックなお仕事をさせていただきました。「頼むよタンザニア」と思うことも多々ありましたが、この国の良いところが、今後更に伸ばされ、一人一人の子供が未来に夢を描けるようなものになっていくことを願ってやみません。 [坪池明日香(7月1日離任)]

19年度1次隊8名が、6月17日に2年間の任期を終えて帰国します。帰国前には、キクウェテ大統領にも表敬訪問を行いました。代表してマサシの理数科教員、富口真理子さんからの挨拶です。

「日本に帰りたい。」赴任して間もない頃に停電とネズミに悩まされ、私は何度かそう考えました。今では全く逆で、日本へ帰りたくありません。もっと自分の生徒達に教えたいことがたくさんあるのに、スワヒリ語もやっとわかってきたのに…。やる気のない生徒のことや、近所付き合いで悩んだことも多いけれど、私はタンザニアが大好きです。いつかまた、戻って来ようと思います。一緒に励ましあった隊員仲間、JICA 事務所の方々、大使館の皆さん、マサシの日本人の皆さん、そして誰よりもマサシデイのみんなとカウンターパートの Mr.Ndyambi に感謝します。Asanteni sana, ndugu wangu wote!

JICA タンザニア事務所: P.O.BOX 9450 Dar es Salaam
Tel: :255-22-2113727-30、 Fax: :255-22-2112976
<http://www.jica.go.jp/tanzania/>

パモジャ(Pamoja) 編集部: 皆様からのご意見や、
Goodな情報の提供をお願いします!
adachifumiko.tz@jica.go.jp

